

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18H03622

研究課題名（和文）東アラブ地域の非公的政治主体による国家機能の補完・篡奪に関する研究

研究課題名（英文）Roles of the Informal Actors in Reconstruction and/or Destruction of the State: Case Studies of the Arab East

研究代表者

青山 弘之（Aoyama, Hiroyuki）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：60450516

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 33,600,000円

研究成果の概要（和文）：中東は「ポスト・イスラーム国段階」とでも言い得る新局面を迎えた。このことは、イスラーム国の温床となってきた「弱い国家」や権威主義的支配が解消したことを意味せず、各国における国家再建や復興の前途は多難である。だがその一方で、国家の法的・制度的枠組みの外に身を置き、紛争や混乱のなかでその弱体化を誘引してきた非公的政治主体のなかに、国家機能を補完しようとするもので、事態打開に貢献しようとするものも現れた。本研究は、東アラブ地域における非公的政治主体に焦点をあて、それらがいかなる政治的、社会的な条件のもとで、国家再建や復興において積極的、あるいは否定的な役割を担おうとするのかを解明することを試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、「情報戦の縮刷版」とでも呼ぶべきインフォシアの構築と、現地の研究機関との連携・研究委託を通じた質的研究と量的研究の統合、という二つの手法を駆使し、多様化する非公的政治主体が国家の機能を補完、ないしは篡奪し、国家と社会を架橋しているのかを明らかにすることで、ポスト・イスラーム国段階を迎えた東アラブ地域の安定化の可否、国家・社会関係、そして「准国家」や「国家内国家」と社会の関係の将来を展望したことに学術的意義がある。また、本研究において得られた知見に基づいて、国家再建や復興を押し進めている同地域の公的・非公的政治主体の営為への支援の方途に指針を提供し得る点に社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：The Middle East has reached a new stage that can be named as “post-Islamic State stage”. However, that doesn't mean that “weak states” that have been breeding grounds for the Islamic State and the authoritarian rule have been already disappeared from the said region. Accordingly, the respective countries still have a rocky road ahead in addressing their reconstruction and reintegration. Meanwhile, however, some of “unofficial political actors” that have been placing themselves outside the legal and institutional framework of their own countries and helping weakening them are willing to complement functions of state instead of challenging them. The purpose of this study was, while paying close attention to the activities of “unofficial political actors” in the Arab East at “post-Islamic State stage”, to reveal under what kinds of political and social conditions they assumed positive or negative roles in their effort to reconstruct and reintegrate their own countries.

研究分野：地域研究

キーワード：地域研究 政治 中東 移民・難民・IDPs 東アラブ NGO

1. 研究開始当初の背景

東アラブ地域諸国は、2000年代初めまでは、国家・社会関係のありようや政治的資源の供給の程度を異にする二つの類型に大別できた。第1は、国家が社会に対して圧倒的優位に立つ「強い国家」で、第2は、社会の自律性が強い一方、統治機能が充分とは言えない「弱い国家」である。前者にはシリア、イラク、ヨルダンが、後者にはパレスチナ、レバノンがそれぞれ該当した。同地域の政治にかかる研究は、概ねこの分類に沿って、「強い国家」における権威主義の頑健性や、「弱い国家」における混乱の実態解明に重点が置かれてきた。

だが、こうした類型化は、イラク戦争や「アラブの春」によって、イラクとシリアが「弱い国家」に転落したことで再考を迫られた。ここに至り、東アラブ地域の研究は、紛争と混乱に苛まれる「弱い国家」がどのように現状に対処しているのか、あるいはなぜ現状を打破し得ないのかを解明することに力点を置くようになり、治安回復、政治制度の再構築、紛争解決、平和構築、国家再建の是非が論じられるようになった。

本研究の実施に先立って、研究代表者および研究分担者は、「非公的政治主体」という概念を用いて、権威主義の頑健性、「強い国家」による社会の統制・監視のしくみ、「弱い国家」における社会集団の政治的営為を分析してきた。また「アラブの春」発生以降は、紛争の当事者や混乱の主因としての非公的政治主体(ないしは非国家主体)の実態解明を試みてきた。ここで言う「非公的政治主体」とは、国家の法的・制度的な枠組みのもとで政治に参加する「公的政治主体」とは対比的に、この枠組みを超越して政治に関与しようとする主体を指す。

これらの研究では、軍や治安機関に代表される非公的政治主体が、権威主義下の「強い国家」において、社会に対して時に抑圧的とも言える姿勢をとり、国家機能の維持・強化に参与するさまを明らかにした。また、シリアやイラクにおけるイスラーム国、両国やトルコのクルド民族主義勢力、レバノンのヒズブッラーといった非公的政治主体が、政治的資源を充分提供できない「弱い国家」に「寄生」するかたちで活性化し、その弱体化を助長する一方で、代替的に国家機能を担う「准国家」、「国家内国家」を志向する傾向が強いことを確認した。

だが同時に、非公的政治主体は、弱体化した国家機能を補完するためにきわめて積極的な役割を果たしてきた。また「国家内国家」とでも言うべき政治の実体をなすヒズブッラー、パレスチナのハマース、ファタハといった組織の活動も、国家の崩壊の回避を前提として行われてきた。

ポスト・イスラーム国段階を迎えた東アラブ地域では、治安や安定の回復への希求が高まっており、長年にわたる紛争と混乱を経て、「弱い国家」におけるもっとも主要な政治主体として成長した非公的政治主体は、機能の面だけでなく、国家と社会それぞれとの関係においても多様化するようになっていた。こうしたなか、国家再建や復興の可否を見極めるうえで、非公的政治主体の実態に迫ることが学術的な急務となっていた。

2. 研究の目的

以上を踏まえ、本研究では、多様化する非公的政治主体が、いかなる政治的、社会的な条件のもとで、またいかなる意図をもって既存の国家の機能を補完、ないしは篡奪し、国家と社会を架橋しているのかを明らかにし、それによって、ポスト・イスラーム国段階を迎えた同地域の安定化の可否、国家・社会関係、そして「准国家」や「国家内国家」と社会の関係の将来を展望することを目的とした。

3. 研究の方法

この目的を達成するため、本研究は、「情報戦の縮刷版」とでも呼ぶべきインフォスフィアの構築、現地の研究機関との連携・研究委託を通じた質的研究と量的研究の統合、という二つの手法を駆使して、非公的政治主体の実態を解明するとともに、彼らの活動の場である東アラブ地域の政治社会情勢の把握をめざした。

この二つの手法は、近年の東アラブ地域の混迷に起因する二つの困難に対処することを可能とした。

第1の困難とは、中立性や客観性を担保し得ない資料・情報の氾濫であり、それに対処するための手法が「情報戦の縮刷版」とでも呼ぶべきインフォスフィアの構築であった。東アラブ地域における中立性や客観性を担保し得ない資料・情報の氾濫は、発信源の多くが、政治的偏向を排除し得ないいわゆる「煽動メディア」であることが主因である。資料・情報の信頼性や代表性を裏付ける作業は、いかなる研究においても必要不可欠だが、その作業自体も政治性を帯びているとの批判に曝される。本研究では、こうした現況を踏まえ、資料・情報の信頼性と代表性を確認する従前的な作業と並行して、政治性を帯びた資料・情報を意図的、且つ網羅的に収集し、東アラブ地域の紛争や混乱における「情報戦の縮刷版」を描き出し、第三者にも検証可能な状態を確保した。

第2の困難とは、安全上の配慮から現地への渡航が事実上制限されているという現況で、これに対処するための手法が、現地の研究機関との連携・研究委託を通じた質的研究と量的研究の統合であった。「アラブの春」が東アラブ地域に波及し、現地での研究活動が制約を受けるなか、

申請者および研究分担者は、現地の研究機関との研究交流（情報や知見の交換）に加えて、現地での実査を委託し得る能力と信頼性を有するカウンターパートの開拓に務め、多くの機関に、データの収集、世論調査などの社会調査を委託してきた。委託研究を通じて得られたデータは、地域研究の主流をなす叙述型の質的研究に加えて、計量分析の手法を通じた量的研究を可能とするもので、本研究ではこの二つの研究方法を統合することで、多角的分析をめざした。

4. 研究成果

本研究は、東アラブ地域5カ国（シリア、イラク、レバノン、パレスチナ、ヨルダン）と、同地域の情勢に直接、間接に関与する一方で、そこでの紛争や混乱の波及の脅威に曝され続けている2カ国（トルコ、イスラエル）を研究対象国とし、この7ヶ国を基本ユニットとして資料・情報の収集、現地の研究機関との連携・研究委託、そして分析、成果普及を行った。東アラブ地域の政情には、これらの国以外にも、欧米諸国、ロシア、イラン、アラブ湾岸諸国の干渉政策が大きな影響を及ぼしており、非公的政治主体の活動を規定する重要な外的要因でもある。それゆえ、7ヶ国に力点を置きつつも、これらの国々を第8のユニットとし、その動静について分析の俎上に載せた。

また、各研究対象国において以下5つの課題を設定し、毎年度そのなかの一つを重点課題に選び、その解明をめざした。

①紛争と混乱の現状 混迷が続く東アラブ地域の政情に焦点を当て、非公的政治主体の営為を規定する政治的、社会的条件を明らかにした。

②非公的政治主体による国家機能の篡奪 非公的政治主体が「弱い国家」の弱体化にどう関与しているのか、そしてそうした関与はいかなる条件によって規定されるのかを解明した。

③国家再建と復興の現状 ポスト・イスラーム国段階を迎えた各国において、紛争解決、平和構築、そして国家再建に向けた取り組みがどのように行われているのかを明らかにした。

④非公的政治主体による国家機能の補完 紛争解決、平和構築、そして国家再建といった取り組みのなかで、非公的政治主体がどのような役割を果たしているのかを精査した。

⑤非公的政治主体が架橋する国家・社会関係 非公的政治主体の一連の営為を通じて東アラブ地域の「弱い国家」と社会関係がいかに変化したのか（ないしはしないのか）を解明した。

2018年度（平成30年度）は①「紛争と混乱の現状」を重点課題とし、その解明をめざした。具体的には、「今世紀最悪の人道危機」と呼ばれたシリアの紛争と混乱の現状を把握するため、その最大の被害者でもある国内避難民（IDPs）を対象とした世論調査を、シリアの研究機関と共同で実施、その結果の分析を行った。一方、公的な政治的営為が展開する国会に着目、2018年にレバノンとトルコで実施された総選挙、そしてシリアの統一地方選挙の立候補者の所属組織、経歴などにかかる情報収集を行った。

2019年度（平成31年度）は②「非公的政治主体による国家機能の篡奪」を重点課題とし、その解明をめざした。主な取り組みとしては、シリア内戦にもっとも深く干渉する域内大国であるトルコに着目し、同国7県（イスタンブール、メルスィン、アダナ、ハタイ、キリス、ガズィアンテップ、シャンルウルファ）におけるシリア難民1,217人を対象とした世論調査を実施、その存在がシリア（さらにはトルコ）の国家としての機能にどのようなインパクトを与えているのかを考察した。また、2020年のシリアでの国会選挙を念頭に、2012年の第1期人民議会選挙と2016年の第2期人民議会選挙での当選者約500人にかかるデータベースの構築を行い、紛争を通じた国家の弱体化が、立法機関の機能にどう作用し、議員の経歴に非公的政治主体の国家機能の補填や篡奪の影響が見られるか否かを検討した。

2020年度（令和2年度）は③「国家再建と復興の現状」を重点課題とし、(1)トルコ、ヨルダン、レバノンを含む諸外国からシリアに帰国した元難民の意識調査を行い、(2)前年度にトルコで実施した難民に対する意識調査の結果と比較、(3)国家再建と復興にかかる彼らのニーズの把握をめざした。主な取り組みとしては、シリアの11県で、元難民750人と国外避難の経験のない国民750人を対象とする世論調査を実施した。レバノンの経済破綻、コロナ禍によりシリア経済が悪化し、農業振興や食料安全保障への対応の必要性が高まっていることを踏まえて、この点における人々のニーズを探ることに力点を置いた。

2021年度（令和3年度）は、④「非公的政治主体による国家機能の補完」を重点課題とし、農業部門および食料安全保障において非公的政治主体の解明をめざした。具体的には、国内での戦闘が実質的に収束しつつも、欧米諸国の一方的制裁、さらにはコロナ禍で困難な国家運営を余儀なくされているシリアに焦点を当て、シリアの研究機関と共同で、非公的政治主体だけでなく、国家や営利団体が、農業部門および食料安全保障の復興において果たしてきた役割を評価するための世論調査を実施し、その分析を行った。一方、公的な政治的営為が展開するシリアの大統領選挙にかかる情報収集を行った。

2022年度（令和4年度）は、前年度の課題である④「非公的政治主体による国家機能の補完」にかかる調査研究に加えて、⑤「非公的政治主体が架橋する国家・社会関係」を重点課題とし、その解明をめざした。シリア内戦のなかで国家機能を補填する主体として存在を増したNGOに焦点を当て、その活動への評価にかかる世論調査を、シリアの研究機関と共同で実施、その結果の分析を行った。一方、公的な政治的営為が展開する地方自治体に着目、2022年のシリアでの統一地方選挙の立候補者の所属組織、経歴などにかかる情報収集を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計69件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 26件）

1. 著者名 青山弘之	4. 巻 第539号（2020年度第2巻）
2. 論文標題 「トランプ米政権のシリア政策の功罪」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中東研究』	6. 最初と最後の頁 90-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山弘之	4. 巻 2020年11月24日
2. 論文標題 「シリア：「常態化した非常時」から「実体化した非常時」へ（国家社会関係：シリア内戦がもたらした希薄化と親和化）」（CMEPS-J Series No. 53）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 CMEPS-J.net (https://cmeps-j.net/ja/publications/syria2021_0201)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高岡豊	4. 巻 第538号（2020年度第1巻）
2. 論文標題 「イスラーム過激派の過去、現在、将来」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中東研究』	6. 最初と最後の頁 3-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高岡豊	4. 巻 第48巻第1号
2. 論文標題 「シリア紛争と非国家武装主体」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『国際安全保障』	6. 最初と最後の頁 9-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 錦田愛子	4. 巻 第171号
2. 論文標題 「遠ざかる和平交渉、独立の夢：取り残された難民たち」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『季刊アラブ』	6. 最初と最後の頁 12-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山尾大・浜中新吾	4. 巻 第61巻第3号
2. 論文標題 「ポスト紛争社会の政治動員と投票率の関係：イラクにおけるサーベイ実験から」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『アジア経済』	6. 最初と最後の頁 2-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24765/ajiakeizai.61.3_2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Dai YAMA0	4. 巻 Vol. 28 (Special Issues)
2. 論文標題 Re-securitization as Evasion of Responsibility: A Quantitative Text Analysis of Refugee Crisis in Major Arabic Newspapers	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Population and Social Studies	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 青山弘之	4. 巻 第540号 (2020年度第3巻)
2. 論文標題 「シリア第3期人民議会選挙 (2020年) : コロナ禍とバアス党の「啓発」プロセス (最近の動向)」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『中東研究』	6. 最初と最後の頁 123-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山弘之	4. 巻 第91号
2. 論文標題 「真の獄中獄外：ラーミー・マフルーフがフェイスブックから発信したメッセージ全訳（2020年）」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『国際情勢紀要』	6. 最初と最後の頁 123-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山弘之・高岡豊・浜中新吾・末近浩太・錦田愛子・今井宏平・山尾大・溝淵正季	4. 巻 2021年3月4日
2. 論文標題 「「中東世論調査（シリアの農業と食料安全保障2020-2021）」単純集計報告」（CMEPS-J Series No. 54）」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 CMEPS-J.net (https://cmeps-j.net/ja/publications/cmeps-j_report_54)	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 第1006号
2. 論文標題 「トルコ政府によるアヤソフィアの再モスク化に関する一考察」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『歴史学研究』	6. 最初と最後の頁 32-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 第66巻（2021年3/4月号）
2. 論文標題 「「アラブの春」から10年：イスラム主義はなぜ敗北したのか」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『外交』	6. 最初と最後の頁 110-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 第540号 (2020年度第3巻)
2. 論文標題 「内戦後最大の政治経済危機に直面するレバノン」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『中東研究』	6. 最初と最後の頁 7-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki AOYAMA, Yutaka TAKAOKA, Shingo HAMANAKA, Kota SUECHIKA, Aiko NISHIKIDA, Kohei IMAI, Dai YAMAO and Masaki MIZOBUCHI	4. 巻 March 31, 2021
2. 論文標題 “Report of Simple Tally of “Middle East Public Opinion Survey (Agriculture and Food Security in Syria 2020-2021)” (CMESP-J Series No. 55)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 CMEPS-J.net (https://cmeps-j.net/publications/cmeps-j_report_55)	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kohei IMAI, Yutaka TAKAOKA, Shingo HAMANAKA, Kota SUECHIKA, Aiko NISHIKIDA, Dai YAMAO, Masaki MIZOBUCHI and Hiroyuki AOYAMA	4. 巻 52
2. 論文標題 Report of Simple Tally of “Middle East Public Opinion Survey (Syrian Refugees in Turkey 2019)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 CMEP-J Report	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平・高岡豊・浜中新吾・末近浩太・錦田愛子・山尾大・溝淵正季・青山弘之	4. 巻 51
2. 論文標題 「中東世論調査 (トルコのシリア難民2019)」単純集計報告書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 CMEP-J Report	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山弘之・木戸皓平	4. 巻 50-2
2. 論文標題 制憲委員会（憲法委員会）：2019年10月30日に国連が発表した代表および同日に選出された小委員会メンバー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CMEP-J Report	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 青山弘之・木戸皓平	4. 巻 50
2. 論文標題 制憲委員会（憲法委員会）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CMEP-J Report	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 青山弘之	4. 巻 90
2. 論文標題 現代シリアにおける国境画定の変遷	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際情勢紀要	6. 最初と最後の頁 129-157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山弘之	4. 巻 18 (5)
2. 論文標題 シリア（シリーズ：中東基礎講座第19回）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『中東動向分析』	6. 最初と最後の頁 33-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 18 (9)
2. 論文標題 レバノン：政治改革への一進一退	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中東動向分析	6. 最初と最後の頁 27-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Dai YAMA0	4. 巻 8
2. 論文標題 The Conflict in Iraq and its Impact on Perception toward Statehood: Based on Poll Surveys	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Relational Studies on Global Crises Online Paper Series	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 5
2. 論文標題 ISのインパクトをはかる：イラク主要3紙の量的テキスト分析から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新学術領域「グローバル関係学」オンライン・ペーパー・シリーズ	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 6
2. 論文標題 送り出し国で難民危機はいかに報道されたのか：アラビア語主要紙の量的テキスト分析から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新学術領域「グローバル関係学」オンライン・ペーパー・シリーズ	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 -
2. 論文標題 「勝利」したイラク人民動員隊とイラン革命防衛隊：ソレイマニー司令官殺害の政治的インパクトを考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中東協力センターニュース	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 -
2. 論文標題 中東世論調査 (イラク2019年) 単純集計報告書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 CMEPS-J	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 48 (3)
2. 論文標題 反基地運動はなぜ起こるのか / 活性化するのか? : トルコの事例の比較分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際安全保障	6. 最初と最後の頁 17-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kohei IMAI	4. 巻 35 (1)
2. 論文標題 Why Syrian Refugees in Turkey Choose Turkey as a Final Destination: Results of Public Opinion Survey of Syrian Refugees in Turkey	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Annals of Japan Association for Middle East Studies	6. 最初と最後の頁 119-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 536
2. 論文標題 公正発展党の内政における政権維持の手法（2002年～2019年）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 -
2. 論文標題 トレンド2019 トルコのシリア越境攻撃：その目的と域外大国の駆け引き	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 38-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 182
2. 論文標題 トルコにおける2019年の地方選挙を読み解く	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 安全貿易情報センター（CISTEC） Journal	6. 最初と最後の頁 228-235
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 溝淵正季	4. 巻 18 (11)
2. 論文標題 レバノン（シリーズ：中東基礎講座第22回）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中東動向分析	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 溝淵正季	4. 巻 47 (3)
2. 論文標題 戦略的資産か政治的負債か? : サウジアラビアにおける米軍基地と基地政治	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際安全保障	6. 最初と最後の頁 55-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shingo HAMANAKA	4. 巻 -
2. 論文標題 The Role of Digital Media in the 2011 Egyptian Revolution	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Democratization	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浜中新吾	4. 巻 536
2. 論文標題 自称される右派、蔑称としての左派 : 2019年4月のイスラエル国会選挙	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 69-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浜中新吾	4. 巻 49
2. 論文標題 国境というフィルター : 難民の「自己検閲」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会科学研究年報	6. 最初と最後の頁 81-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shingo HAMANAKA	4. 巻 35 (1)
2. 論文標題 The Inconvenient Facts Hindering a New Approach to Refugee Assistance Program	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本中東学会年報	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浜中新吾	4. 巻 21
2. 論文標題 法の精神：イスラエルの政党政治とナショナル・アイデンティティ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本比較政治学会年報	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yutaka TAKAOKA	4. 巻 35 (1)
2. 論文標題 Experiences and Attitude toward Migration among Syrian Migrants and Refugees	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本中東学会年報	6. 最初と最後の頁 69-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高岡豊	4. 巻 536
2. 論文標題 シリアの復興の現状と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 42-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yutaka TAKAOKA	4. 巻 39
2. 論文標題 How Should One View the Current Status of Syria and the Awareness among Syrians?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 CMEPS-J Report	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yutaka TAKAOKA	4. 巻 40
2. 論文標題 What Do the "Winning" Immigrants and Refugees Have to Say?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 CMEPS-J Report	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yutaka TAKAOKA	4. 巻 41
2. 論文標題 What is the Threat of "Returnees" from the "Islamic State"?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 CMEPS-J Report	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yutaka TAKAOKA	4. 巻 42
2. 論文標題 The Return of Syrian Refugees in Turkey: Outlook and Concerns	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 CMEPS-J Report	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山弘之・末近浩太・溝淵正季	4. 巻 43
2. 論文標題 レバノン第19期国民議会選挙(2018年)データベース	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 CMEPS-J Report	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山弘之	4. 巻 44
2. 論文標題 シリア地方選挙結果(2018年): 県議会・県庁所在市議会当選者一覧	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 CMEPS-J Report	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山弘之	4. 巻 -
2. 論文標題 シリアのイマード・ムハンマド・ディーブ・ハミース改造内閣(2018年11月26日)の閣僚名簿	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 CMEPS-J.net (Country File)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木啓之	4. 巻 -
2. 論文標題 ラーミー・ハムドゥッラー内閣(2013年6月~)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 CMEPS-J.net (Country File)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高岡豊	4. 巻 -
2. 論文標題 シリアの国内避難民の状況と意識	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Yahoo! Japan ニュース	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高岡豊	4. 巻 -
2. 論文標題 中東の「親日観」についての考察：中東世論調査 (シリア) の結果から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Yahoo! Japan ニュース	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山弘之	4. 巻 -
2. 論文標題 レバノンの第3次サアド・ハリリー内閣 (2019年1月31日発足) の閣僚名簿	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CMEPS-J.net (Country File)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高岡豊	4. 巻 -
2. 論文標題 シリア人民は将来をどう展望しているのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Yahoo! Japan ニュース	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山弘之・高岡豊・浜中新吾・今井宏平・末近浩太・錦田愛子・山尾大・溝淵正季	4. 巻 45
2. 論文標題 「中東世論調査（シリア避難民2018）」単純集計報告書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CMEPS-J Report	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki AOYAMA, Yutaka TAKAOKA, Shingo HAMANAKA, Kohei IMAI, Kota SUECHIKA, Aiko NISHIKIDA, Dai YAMAO and Masaki MIZOBUCHI	4. 巻 46
2. 論文標題 Report of Simple Tally of “Middle East Public Opinion Survey (Syrian Internally Displaced Persons 2018)”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CMEPS-J Report	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 47
2. 論文標題 「中東世論調査（シリア2017-11）」単純集計報告書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CMEPS-J Report	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 48
2. 論文標題 「イラク世論調査（イラク2017）」単純集計報告書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CMEPS-J Report	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 青山弘之	4. 巻 -
2. 論文標題 シリアの国内避難民 (IDP) はどのような支援を望んでいるのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Yahoo! Japan ニュース	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山弘之	4. 巻 89
2. 論文標題 シリアにおける分権制・連邦制の行方：アサド政権vsクルド民族主義組織PYD	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際情勢	6. 最初と最後の頁 115-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山弘之	4. 巻 -
2. 論文標題 レバノン第19期国民議会選挙詳解	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 別冊・中東研究：中東各国動向 (2018)	6. 最初と最後の頁 820-865
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki AOYAMA	4. 巻 --
2. 論文標題 Syria: Strong State Versus Social Cleavages	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Linda Matar and Ali Kardi, eds. Syria: From National Independence to Proxy War. Cham: Palgrave Macmillan	6. 最初と最後の頁 71-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 671
2. 論文標題 「IS後」のシリア紛争：輻輳する3つの「テロとの戦い」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 37-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 533
2. 論文標題 レバノン第19期国民議会選挙とヒズブッラーの躍進	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 68-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 49
2. 論文標題 9年ぶりに実施されたレバノン総選挙：「イランの影響力拡大」は本当か？	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 84-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 910
2. 論文標題 レバノン総選挙：「ヒズブッラー躍進」の意味	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 25-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Aiko NISHIKIDA	4. 巻 732
2. 論文標題 Hamas and the Gaza War of 2014: Developments since the Arab Spring in Palestine	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 IDE Discussion Papers	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Aiko NISHIKIDA	4. 巻 731
2. 論文標題 Hamas's Ascension and Its International Relations: Literature Review	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 IDE Discussion Papers	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 671
2. 論文標題 中東地域秩序にクルド人の居場所はあるのか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 17-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 194
2. 論文標題 『主権の空白地』の統治をめぐるせめぎ合い：イラクとシリアにおける『イスラーム国』とクルド人組織の活動を事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 46-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井宏平	4. 巻 6
2. 論文標題 トルコにおける2019年3月の地方選挙の展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中東レビュー	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計48件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 青山弘之
2. 発表標題 「傀儡か自治か：シリア北東部におけるクルド民族主義勢力の盛衰（2011～2019年）」（企画セッション1「非国家主体の理論と実践：クルド人の非政府主体を事例として」第36回日本中東学会年次大会特別研究集会、Zoom
3. 学会等名 日本中東学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 青山弘之
2. 発表標題 「シリアの非国家武装勢力の実態」
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 今井宏平
2. 発表標題 「クルディスタン労働者党（PKK）の戦略変化に関する政治学的考察」
3. 学会等名 日本中東学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 錦田 愛子
2. 発表標題 「国家主権の外側におかれる者の危機：移民／難民およびパレスチナの権利をめぐって」
3. 学会等名 日本国際政治学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shingo HAMANAKA and Dai YAMAOKA
2. 発表標題 Political Mobilization and Its Impact on Voter Turnout: Based on a Survey Experiment in Iraq
3. 学会等名 Southern Political Science Association
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Aiko NISHIKIDA, Yutaka TAKAOKA, and Shingo HAMANAKA
2. 発表標題 The Circumstances and Challenges for the Return Migration of Syrian Migrants-Refugees
3. 学会等名 European Social Science History Conference (ESSHC)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroyuki AOYAMA
2. 発表標題 Poll Survey Analysis of the Recognition of International Relations by Syrian Internally Displaced Persons (IDPs)
3. 学会等名 一般財団法人日本国際政治学会2019年度研究大会 C-8 トランスナショナル、朱鷺メッセ（新潟県新潟市）2019年10月19日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroyuki AOYAMA and Aiko NISHIKIDA
2. 発表標題 Poll Survey Analysis of the Required Type of Support and Acceptable Donors for Syrian Internally Displaced Persons (IDPs)
3. 学会等名 The Global Syrian Refugee Crisis, Gaziantep University, Gaziantep, TURKEY, October 16, 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青山弘之
2. 発表標題 黙殺されてきたシリア内戦最大の被害者たちは何を欲しているか：IDPs世論調査結果の地域研究的解読
3. 学会等名 日本中東学会第35回年次大会企画セッション4「多角的アプローチを通じて解明するシリア紛争の影響：人々の意識変化に関する量的研究、質的研究」、秋田大学手形キャンパス、2019年5月12日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kota SUECHIKA
2. 発表標題 Diffusion and Convergence of Statehood in Syria under Conflict: The 2017 Social Survey Analysis
3. 学会等名 Panel 7E "Exploring New Political Dynamics in the Post-IS Middle East," The 22nd Mediterranean Studies Association Annual International Congress, University of Crete, Rethymnon, GREECE, June 1, 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kota SUECHIKA, Takuro KIKKAWA and Takayuki YOKOTA
2. 発表標題 Social Disorder, Purged Islamist, and Dysfunctional Humanitarian Intervention over the Arab Authoritarianism: The Case of the Muslim Brotherhood Movements in the 2010s
3. 学会等名 Panel TB15 "How Authoritarianism Endures," CEEISA-ISA 2019 Joint International Conference, Belgrade, University of Belgrade, SERBIA, June 18, 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kota SUECHIKA
2. 発表標題 Reconsidering the State-Convergence Thesis in Syria under Conflict: A Poll Survey Data Analysis
3. 学会等名 Panel FD01 "Actors, International Security and Intelligence Education," ISA International Conference 2019, Accra, University of Ghana, GHANA, August 2, 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 末近浩太
2. 発表標題 中東政治研究におけるイスラーム主義：逸脱事例・パラドクス・選択バイアス
3. 学会等名 一般財団法人日本国際政治学会2019年度研究大会 C-3 中東・ポストIS期におけるイスラーム主義運動と中東政治 朱鷺メッセ（新潟県新潟市）2019年10月19日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aiko NISHIKIDA
2. 発表標題 Multi-Level Support System and Its Appreciation by Syrian Refugees in Germany
3. 学会等名 The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies, The University of Tokyo, Hongo Campus, June 30, 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 錦田愛子
2. 発表標題 帰還をめぐる思い：シリア難民の移動に対する意識の比較分析
3. 学会等名 日本中東学会第35回年次大会企画セッション4「多角的アプローチを通じて解明するシリア紛争の影響：人々の意識変化に関する量的研究、質的研究」、秋田大学手形キャンパス、2019年5月12日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山尾大
2. 発表標題 宗派主義の政治的意味をはかる：イラク主要紙の量的計量分析
3. 学会等名 日本中東学会第35回年次大会企画セッション4「多角的アプローチを通じて解明するシリア紛争の影響：人々の意識変化に関する量的研究、質的研究」、秋田大学手形キャンパス、2019年5月12日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Dai YAMAo and Hiroko KINOSHITA
2. 発表標題 A Quantitative Text Analysis on Mobilization of the Electorate by Islamist Parties during the 2018 Iraqi Parliamentary Election
3. 学会等名 International Conference on Global Risk, Security and Ethnicity, IPSA Research Committee 44, Nagasaki University, Nagasaki, August 11, 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Dai YAMAo
2. 発表標題 How the Refugee Crisis was Reported in the Middle East: A Quantitative Text Analysis of Major Arabic Newspapers
3. 学会等名 一般財団法人日本国際政治学会2019年度研究大会 C-8 トランスナショナル、朱鷺メッセ（新潟県新潟市）2019年10月19日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Dai YAMAo
2. 発表標題 “Re-securitization” as “Evasion of Responsibility”: A Quantitative Text Analysis of Major Arabic Newspapers on Refugee Crisis
3. 学会等名 Relational Studies on Global Conflicts: International Conference on Resources and Human Mobility, Mahidol University, Bangkok, THAILAND, December 2-3, 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kohei IMAI
2. 発表標題 Why Protests against the U.S. Bases Have Not Frequently Happened in Turkey?
3. 学会等名 13th Pan-European Conference on International Relations, Sofia, September 14, 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今井宏平
2. 発表標題 外圧による民主化と新興国の民主化支援との関係：公正発展党政権期のトルコを事例として
3. 学会等名 日本比較政治学会第22回研究大会、自由企画2「民主化支援活動における対立的ダイナミズムの検証」筑波大学、2019年6月29日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kohei IMAI
2. 発表標題 Why Turkey Focuses on Establishment of Small Scale Organizations?: Causes and Conditions
3. 学会等名 Mediterranean Studies Association 22nd Annual International Congress, June 2, 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masaki MIZOBUCHI
2. 発表標題 Strategic Asset or Political Burden? US Military Bases and the Base Politics in Saudi Arabia
3. 学会等名 International Studies Association, 2020 Annual Convention, Hawaii, USA, March 2020
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 溝淵正季
2. 発表標題 『対テロ戦争』再考：ポストIS期における対テロ戦略と中東の謀略戦
3. 学会等名 一般財団法人日本国際政治学会2019年度研究大会、朱鷺メッセ（新潟県新潟市）2019年10月19日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masaki MIZOBUCHI
2. 発表標題 Trump and the Middle East: Is the United States Going Right Way?
3. 学会等名 The 22nd Mediterranean Studies Association Annual International Congress, University of Crete, Rethymon, GREECE, June 1, 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shingo HAMANAKA
2. 発表標題 Rebuilding Leviathan
3. 学会等名 Southern Political Science Association 2020 Conference, Puerto Rico, PUERTO RICO, January 9, 2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浜中新吾・山尾大
2. 発表標題 ポスト紛争社会の政治動員と投票率の関係
3. 学会等名 日本選挙学会、東北大学、2019年7月14日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浜中新吾
2. 発表標題 シリア政府支配下住民と国内避難民の国際関係認識
3. 学会等名 日本中東学会第35回年次大会企画セッション4「多角的アプローチを通じて解明するシリア紛争の影響：人々の意識変化に関する量的研究、質的研究」、秋田大学手形キャンパス、2019年5月12日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yutaka TAKAOKA
2. 発表標題 Syrian Migrants-Refugees and IDPs: Their Experiences and Perspective of Return
3. 学会等名 International Conference “Syrian Refugee Crisis: for Regional to Global Challenges,” National Academy of Science of the Republic of Armenia, Yerevan, ARMENIA, September 2, 2019 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aiko NISHIKIDA
2. 発表標題 After the Crisis in 2015 Adaptation of Syrian refugees in Germany
3. 学会等名 International Conference “Syrian Refugee Crisis: for Regional to Global Challenges,” National Academy of Science of the Republic of Armenia, Yerevan, ARMENIA, September 2, 2019 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高岡豊
2. 発表標題 イスラーム過激派の盛衰を分析する視角
3. 学会等名 一般財団法人日本国際政治学会2019年度研究大会、朱鷺メッセ（新潟県新潟市）2019年10月19日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青山弘之・浜中新吾・高岡豊・山尾大
2. 発表標題 紛争地における地域研究の方法およびその成果
3. 学会等名 日本中東学会第34回年次大会、上智大学、2019年5月12～13日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 青山弘之・高岡豊・佐藤真紀・小泉尊聖
2. 発表標題 生写真が語るシリアの今：人々は紛争の苦難をどう乗り越えようとしているのか？
3. 学会等名 東京外国語大学、2018年10月6日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森山央朗・青山弘之・横田貴之・高岡豊・山尾大・末近浩太・吉川卓郎・浜中新吾・岩坂将充・今井宏平
2. 発表標題 「アラブの心臓」に何が起こったのか：現代中東の実像を捉える
3. 学会等名 立命館大学衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム、2019年1月12日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青山弘之・太田昌興・ラウィヤ・アルタウィル
2. 発表標題 最新の映像と生の声で知るシリアの今と未来：子どもの支援、アレッポ石けん工場復旧に向けて
3. 学会等名 東京外国語大学本郷サテライト3、2019年3月8日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 末近浩太
2. 発表標題 地域研究は教えられるのか：各国政治・比較政治・国際政治との関係から
3. 学会等名 2018年度日本比較政治学会研究大会・自由企画1「比較政治学」の教育：大学で何をいかに教えるか」東北大学、2018年6月23日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kota SUECHIKA
2. 発表標題 Competitive Statehood in Syria under Conflict: A Poll Survey Analysis
3. 学会等名 The Fifth World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES), University of Seville, Seville, SPAIN, July 18, 2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Aiko NISHIKIDA
2. 発表標題 Prolonged Conflict and Multidimensional: Approach to the Issue of Palestinian Refugees
3. 学会等名 International Conference "Relational Studies on Global Conflicts- Toward a New Approach to Contemporary Crises", 21 December 2018. Hotel Zira, Belgrade, Serbia
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 錦田愛子
2. 発表標題 離散により乗り越える分断：パレスチナ人の再難民化と国民国家
3. 学会等名 日本国際政治学会2018年度年次大会、2018年12月4日、大宮ソニックシティ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Aiko NISHIKIDA, Yutaka TAKAOKA, and Shingo HAMANAKA
2. 発表標題 Comparative study of the dynamics of the Syrian refugees in Jordan, Turkey and Sweden
3. 学会等名 European Social Science History conference (ESSHC) Annual Conference 2018, 7 April 2018, Queen ' s University, Belfast, Northern Ireland
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yutaka TAKAOKA
2. 発表標題 Experience and Consciousness of Migration among Arab citizen: Focusing on Syria
3. 学会等名 25th World Congress of Political Science, 2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yutaka TAKAOKA
2. 発表標題 Do Syrians in Turkey Want to Return?: Analyzing Survey to SuTPs (2017)
3. 学会等名 Turkish - Japanese Joint Research Workshop on Migration, 2019 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kohei IMAI
2. 発表標題 Why Syrian Refugees Choose Turkey as a Final Destination: The Quantitative Analysis to Syrian Refugees in Turkey
3. 学会等名 25th IPSA World Congress of Political Science, 2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kohei IMAI
2. 発表標題 Turkey's Policies toward the Forced Migration: Past and Present
3. 学会等名 BIM (Berliner Instituts für empirische Integrations), 2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 今井宏平
2. 発表標題 シリア難民に対するトルコとEUの協調行動
3. 学会等名 日本国際政治学会2018年度研究大会, 2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kohei IMAI
2. 発表標題 The Perception toward Child Education of Syrian Refugees in Turkey
3. 学会等名 Turkish - Japanese Joint Research Workshop on Migration, 20-18 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shingo HAMANAKA
2. 発表標題 The Inconvenient Facts Hindering a New Approach to Refugee Assistance Program
3. 学会等名 25th World Congress of Political Science, 2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shingo HAMANAKA
2. 発表標題 The Filter Function of Border Control and Refugee Own Censorship
3. 学会等名 Turkish - Japanese Joint Research Workshop on Migration, 2019 (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計20件

1. 著者名 坂井 一成、八十田 博人	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 240
3. 書名 よくわかるEU政治	

1. 著者名 末近 浩太	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 中東政治入門	

1. 著者名 末近 浩太、遠藤 貢	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 272
3. 書名 紛争が変える国家	

1. 著者名 浜中 新吾	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 240
3. 書名 イスラエル・パレスチナ	

1. 著者名 川名 晋史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 基地問題の国際比較	

1. 著者名 末近 浩太	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 276
3. 書名 シリア・レバノン・イラク・イラン	

1. 著者名 高尾 賢一郎、後藤 絵美、小柳 敦史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 356
3. 書名 宗教と風紀	

1. 著者名 高橋 良輔、山崎 望	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 324
3. 書名 時政学への挑戦	

1. 著者名 松永 泰行	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 213
3. 書名 「境界」に現れる危機	

1. 著者名 羽場 久美子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 412
3. 書名 移民・難民・マイノリティ	

1. 著者名 エリカ・フランツ、上谷 直克、今井 宏平、中井 遼	4. 発行年 2021年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 234
3. 書名 権威主義	

1. 著者名 山尾 大	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 296
3. 書名 紛争のインパクトをはかる	

1. 著者名 Shinji KAWANA and Minori TAKAHASHI	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Exploring Base Politics: How Host Countries Shape the Network of U.S. Overseas Bases	5. 総ページ数 208
3. 書名 Routledge	

1. 著者名 浜中新吾・青山弘之・高岡豊（編著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 310
3. 書名 中東諸国民の国際秩序感：世論調査による交際関係認識と越境移動経験・意識の計量分析	

1. 著者名 酒井啓子（編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 『現代中東の宗派問題：政治対立の「宗派化」と「新冷戦」（シリーズ 転換期の国際政治10）』	5. 総ページ数 282
3. 書名 晃洋書房	

1. 著者名 錦田愛子・近藤敦・小坂田裕子（他）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 政治主体としての移民／難民：人の移動が織り成す社会とシティズンシップ	5. 総ページ数 288
3. 書名 明石書店	

1. 著者名 坂井一成・八十田博人（編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 『よくわかるEU政治』	5. 総ページ数 240
3. 書名 ミネルヴァ書房	

1. 著者名 広瀬佳一（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 現代ヨーロッパの安全保障	5. 総ページ数 268
3. 書名 ミネルヴァ書房	

1. 著者名 間寧（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 シリーズ中東政治研究の最前線第2巻・トルコ	5. 総ページ数 256
3. 書名 ミネルヴァ書房	

1. 著者名 高岡豊・溝淵正季（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 「アラブの春」以後のイスラーム主義運動	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>中東世論調査（シリアの農業と食料安全保障2020-2021） https://cmeps-j.net/ja/poll_surveys/syria2020-2021 中東世論調査（シリアの農業と食料安全保障2020-2021）英語版 https://cmeps-j.net/poll_surveys/syria2020-2021 現代中東政治研究ネットワーク（CMESP-J.net） https://cmeps-j.net/ シリア・アラブの春顛末期：最新シリア情勢 http://syriaarabspring.info/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	末近 浩太 (Suechika Kota) (70434701)	立命館大学・国際関係学部・教授 (34315)	
研究分担者	山尾 大 (Yamao Dai) (80598706)	九州大学・比較社会文化研究院・准教授 (17102)	
研究分担者	錦田 愛子 (Nishikida Aiko) (70451979)	慶應義塾大学・法学部（三田）・准教授 (32612)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	濱中 新吾 (Hamanaka Shingo) (40344783)	龍谷大学・法学部・教授 (34316)	
研究分担者	高岡 豊 (Takaoka Yutaka) (10638711)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・研究員 (12603)	
研究分担者	今井 宏平 (Imai Kohei) (70727130)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター中東研究グループ・研究員 (82512)	
研究分担者	溝淵 正季 (Mizobuchi Masaki) (00734865)	広島大学・人間社会科学研究科（総）・准教授 (15401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関